

野の仏ギャラリー ⑩

薬師如来坐像

東多久町別府

丸彫りの坐像で、別造りの蓮華台があります。頭部は螺髪、頭上部には肉髻が見られ、眉間に白毫があり、顔の表情は柔和です。左手を下げ蓋付きの薬壺を持ち、右手を上げ親指と薬指で輪を作っています。薬師如来は東方浄土にあつて病苦を除去し、疾病を治癒して寿命を延ばすとされます。

銘「東多久新四国八十八ヶ所第三十四番 本尊 薬師如来 土佐國種間寺」(施主(四名)昭和七年一月吉祥建立)

「佐賀市八戸町 彫刻師 平川清」



多久市郷土資料館長 藤井伸幸

- 如来は真理に到達し、修行を完成した者を称します。
- 螺髪はカール状の頭髪です。
- 肉髻は頭の上が盛り上がった状態をいいます。
- 白毫は仏の眉間に生える白い毛で光明を放ちます。

今月の論語

賢を見ても
賢しからんことを思ふ

かしこい人、すばらしい人を見ると、自分もあんなふうになりたいと思ふ

今月の福宅放送は、東原岸中央校9年の中田冬芽さんです

教育長コラム

ちよっとい話



「2011年3月11日」

東日本大震災

避難所となった体育館の段ボールや毛布の片隅で、卒業式は挙行された。その一つ、気仙沼階上中学校の卒業生代表は「苦境にあつても天を恨まず、運命に耐え助け合つて生きていく。これがこれからの私たちの使命」と泣きながら誓った。当時、中学3年だった生徒の中には、高校進学を断念する子が少なくなかった。「親がいなくなつた、兄弟の面倒を見る」「親が大変な時だ、助ける」、既に23歳や24歳になった。どうしているのだろうか、いつも気にかかる。日本人の優しさは届いているだろうか。

数か月後、私の勤務した学校の「二分の一人式」で、10年後の自分に向かって「日本は復興していますか」と問うた4年生がいた。間もなくその日が来る。

苦境にある人々の心に寄り添つた社会を築かねばと思う3月。

教育長 田原優子

市民文芸

◆西空に 豆球ほどのひとつ星
娘の旅立ち 七年が過ぎ

◆ありがとう いっぱい使う 毎日を
目指す私は笑顔で生きる
梶原恵美子

◆またひとつ 眠れぬ夜を数えてる
自分を生きる それだけなのに
野崎 隆幸

◆来し方を振り向くゆとり得しときは
老いの兆せる 二人になりて
川浪 信子

◆「手術傷癒えて医師との別れかな」
そこはかとなき人世の移り
尾形 節子

◆釣瓶より水のしたたる冬の朝
倉成 皓二

◆初詣 絵馬に大きく希望校
富樫 明美

◆寒牡丹 つばみに雨滴きらめけり
中嶋 清子

◆極寒のこぼれさうなる星の屑
おおやはな
武富 律子

◆人生に努力が出来る 今がある
西山 残月

◆リハビリで学ぶ上手な 転び方
大谷 和

◆食事後の菓子や果物 別腹だ
田中 正春

◆追伸の別れの文字はそつと書き
井上 東子

◆今言つたその舌の根のよく乾き
三塩不二子

短歌 《麦の芽短歌会 互選》

俳句 《互選》

川柳 《多久川柳会 互選》